

埼玉トヨペット 2019 RACE REPORT

Green Brave

【#68 埼玉トヨペット Green Brave GR SPORT マーク X】

2019年11月9日(土)~11月10日(日)
 ビレリスーパー耐久シリーズ 2019
 第6戦 スーパー耐久レース in 岡山



決勝結果 (ST-3 クラス)

#68 埼玉トヨペット Green Brave
 GR SPORT マーク X
 (吉田広樹/脇阪薫一/服部尚貴)

決勝：3位

(103周、3時間02分41秒793)
 予選：1位 ポールポジション
 (合算タイム3分18秒892)

■ 3位フィニッシュによりランキング2位確定。チャンピオン獲得ならず ■

スーパー耐久の第6戦（最終戦）が岡山国際サーキットで行われた。本番の約10日前、テスト中にブレーキのトラブルでクラッシュ。マークXは大きなダメージを負ってしまった。しかし、坂戸サービスセンターにある板金部門や協力企業（株式会社プロモーション、ヤマックス株式会社）の多大な協力を得て、4日間で元の姿に。また、服部選手もケガを負ってしまったため、Aドライバーは吉田選手が担当、服部選手はCドライバーと変更された。予選日の天候は晴。午前中に行われたフリー走行では、吉田選手がクラッシュの影響を感じさせない軽快な走りでトップタイムをマーク。予選でも吉田選手が気迫の攻撃を見せ1位（1分39秒344）、脇阪選手も5位（1分39秒548）のタイムをマークし、予選1位を獲得した。出場を危ぶむ声もあったことを考えると、奇跡の復活劇。服部選手は痛みをこらえながら決勝のシミュレーションを行い4位。ポールポジションにより1ポイントを獲得したことで、ランキングトップの#34 RC350とのポイント差は2ポイントに縮まった。

スタートドライバーの吉田選手は、トップで1コーナーに進入するも、アトウッドコーナーで前のクルマがスピン。減速を強いられ、順位を落としてしまう。さらに混戦の中で後続のクルマが吉田選手のバンパーにヒット。吉田選手は6位で1周目を終える。#34 RC350は4位。吉田選手は3周目に#39 RC350を抜いて5位となるが、しばらくの間はST-TCRクラスのクルマを追いかける展開となる。20周目にこれを抜くとペースアップ。#34 RC350との差が1周毎に縮まり始め、27周目にパス。4位に上がる。吉田選手はペースを緩めることなく3位の#15 フェアレディZを追いかける。スタートから約1時間20分を経過した46周目、#62 RC350がコース上にストップ。すぐにFCY（フルコースイエロー）が導入される。吉田選手もこのタイミングでピットイン。脇阪選手に交代し、タイヤ交換と給油を行いピットアウト。FCYはSC（セーフティカー）による先導へと変わり、2位走行中の脇阪選手は隊列の先頭付近を走行するが、後方にはトップの#15 フェアレディZがつけており、1周近い差がついてしまう。レースは50周目からリスタート。脇阪選手はあきらめることなく#15 フェアレディZより速いペースで周回するが、スタート直後の接触の影響によりマフラーが外れかかっており、セーブしながら走行。3位には#34 RC350がつけ、チャンピオン争いは全く油断できない。82周目に#15 フェアレディZが2回目のピットイン。脇阪選手も86周目にピットに入り、吉田選手に交代。給油のみでピットアウト。早い段階で2回のピットインを終えていた#38 RC350がトップで、ピットインを残している#34 RC350が2位。以下、#15 フェアレディZ、#68 マークXと続く。95周目に#34 RC350がピットに入り、吉田選手は3位へ。しかし、#34 RC350は4位につけており、2位以上でチェッカーを受けなければチャンピオンの権利はない。渾身の走りで前との差を縮める吉田選手だが、約1.4秒まで迫ったところでチェッカー。この結果により2者のポイントは同点となり、優勝している#34 RC350がチャンピオンに輝くことになった。

今シーズンもたくさんのご声援、ありがとうございました。 埼玉トヨペット Green Brave 一同

DRIVERS VOICE



本当にもう悔しいだけです。毎レース、チームのメカさん、今回は板金班の人たちもすごくいいクルマにしてくれて。クラッシュから1週間で走るクルマになったのが奇跡で、結果で恩返ししたかったのが正直なところです。前でぐちゃぐちゃになり、次につなげるのが大事と思って引いたところ、左右と後ろを囲まれ、後ろを突かれてマフラーが外れそうになりました。(吉田広樹選手)

スタート直後に接触されたダメージが出てきて、アクセルに不具合が出たのはなんとかごまかせたのですが、マフラーが落ちそうになり、縁石にタッチにせず走るという指示がチームから出ていました。先週のクラッシュから予選1位をとって、チャンピオン争いできたのはスタッフや坂戸工場、会社のみなさんの協力があったこそ。そこは良かったと思っています。(服部薫一選手)

今日は乗らずにまわせたので私は控えてまわっていました。やるだけやっつの順位ですから、しょうがないと思っています。2人は全力でやってくれたと思っていますし、最初の1周目に接触とか不運なことがありましたけど、それ以外はメカニックも含めて一生懸命やった結果です。この結果を受け止めて、また精進して次のステップに進みたいと思います。(服部尚貴選手)

MECHANIC VOICE

タイヤマネージメントを担当しました。サーキットは初めてで、貴重な体験をさせてもらっています。タイヤの空気圧ひとつとっても、内圧の管理、調整、本当にしっかり調整しないとフィーリングが変わってしまうので、すごく大変だなと思いました。今回、モータースポーツ室のスタッフに一生懸命教えてもらったのですが、まだまだ学ぶことが多いです。(大宮西支店・黒沼昭範)



ST-3 クラス決勝結果

順位	チーム	周回数
1位	ADVICS muta racing RC350 TWS(レクサス RC350)	103周
2位	岡部自動車 Z34(ニッサン フェアレディZ)	103周
3位	埼玉トヨペット Green Brave GR SPORT マークX(トヨタ マークX)	103周
4位	TECHNO FIRST RC350(レクサス RC350)	102周
5位	5ZIGEN ADVICS RC350 TWS TRACY(レクサス RC350)	102周

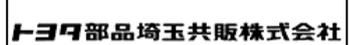
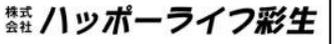
天候:晴 路面:ドライ ※出走7台

ST-3 クラスポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1位	34	TECHNO FIRST	122
2位	68	埼玉トヨペット Green Brave	122
3位	38	TRACY SPORTS	112.5
4位	62	Le Beausset Motorsports	92
5位	39	TRACY SPORTS	91
6位	14	OKABEJIDOSHA motorsport	64

※6位まで(8台中)

埼玉トヨペット Green Brave PARTNERS 協賛各社 ※50音順

 赤城車体工業株式会社 akagi body industry Co.,Ltd. SINCE 1962 http://akagiparts.jp	 Total Advertising Agency Assist one	 ALPINE Driving Mobile Media Innovation	 Mobil 1™
赤城車体工業株式会社	株式会社アシスト・ワン	アルパインマーケティング株式会社	EMG ルブリカンツ合同会社
 NACK5 79.5FM	 omiya clean co.,ltd DAISHIN	 株式会社 岡崎巧芸	 CarGlass-JP
株式会社 FM NACK5	大宮グリーン社・大進カーエアコン	株式会社岡崎巧芸	株式会社カーグラス・JP
 Coolens	 ThreeBond	 埼玉トヨペット陸送株式会社	 4テレ王
株式会社エヌ・ティ・コーポレーション	埼群スリーボンド株式会社	埼玉トヨペット陸送株式会社	株式会社テレビ埼玉
 DENSO	 Toy-Factory Van-conversion builder®	 MODELLISTA	 トヨタ部品埼玉共販株式会社
株式会社デンソーソリューション	株式会社トイファクトリー インターナショナル	株式会社トヨタカスタマイジング & ディベロップメント	トヨタ部品埼玉共販株式会社
 UNDER ARMOUR	 TOYOTA HOME トヨタホーム東京	 トヨタレンタリース新埼玉	 株式会社 ハッピーライフ彩生
株式会社ドーム	株式会社トヨタホーム東京	株式会社トヨタレンタリース新埼玉	株式会社ハッピーライフ彩生
 FUJI XEROX	 Power Craft JAPAN HIGH PERFORMANCE EXHAUST SYSTEM	 PRO COMPOSITE Carbon performance	 総合建設業 北本市 丸和工業株式会社
富士ゼロックス埼玉株式会社	株式会社プロモーション		丸和工業株式会社